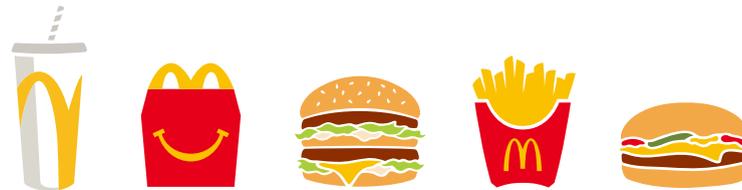


McDonald's
Sustainability Report
2023



目次

Introduction

はじめに

毎日多くのお客様をお迎えし、お食事を提供しているマクドナルドには、世界が抱えるあらゆる課題に地域社会の一員として立ち向かう、大きな責任があります。本レポートでは、“おいしさと笑顔を地域の皆さまにお届けする”当社の持続可能な社会の実現に向けた取り組みを紹介いたします。

- 03 CEOメッセージ
- 04 会社概要
- 05 マクドナルドシステム
- 06 サステナビリティ方針と戦略
- 07 2023年ハイライト

Our Planet

地球環境のために

私たちは、地球のため、将来のために、気候変動対策に真摯に向き合っています。「2050年までにネット・ゼロ・エミッション達成」という目標に向け、世界的な気候変動や環境課題に社会の一員として積極的に取り組み、環境保全に寄与すると共に、事業活動における環境負荷軽減を常に検討し、行動しています。

- 12 気候変動への対策
- 14 パッケージ、ハッピーセット®のおもちゃ、食品の2R

Food Quality & Sourcing

安心でおいしいお食事を

私たちは、「食の安全」をすべてに優先させ、調達から店舗まで徹底した品質保証体制を実施すると共に、関わるすべての人が、倫理的で誠実な行動ができるシステムを維持・改良していきます。安定供給はもちろん環境課題や社会課題の解決に向けサプライヤーと連携して取り組み、持続可能な食材・資源の調達にも尽力します。

- 17 食品安全
- 20 お子様向けの商品に対する責任
- 21 責任ある調達
- 22 アニマルヘルス&ウェルフェア

Jobs, Inclusion & Empowerment

働きがいすべての人に

私たちは、マクドナルドのビジネスを支えているのは“人”であると考え、多様な人材が活躍し、誰もが自分らしく働きながら成長し、働きがいを感じることでできる職場環境の実現を目指しています。Our Values（私たちの価値観）のもと、安全で尊重しあえるインクルーシブな職場環境を推進すると共に、日々のトレーニングや専門教育機関における成長機会を提供し、自らの選択と努力次第でどこまでも成長できる「Up to You」なキャリア構築を支援しています。

- 24 ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン (DE&I)
- 27 人材育成とキャリア
- 29 安全で尊重しあえるインクルーシブな職場環境

Community Connection

地域の仲間にサポートを

私たちは、創業者レイ・A・クロックの言葉にもあるとおり「私たちがいつも支えてくださっている地域の皆さまへお返しをする義務がある」と考えています。コミュニティの一員として、子供たちとご家族、そしてお客様や地域・社会の皆さまの笑顔を第一に考え取り組んでいます。

- 31 ドナルド・マクドナルド・ハウスの支援
- 32 キッズスポーツ支援
- 33 子供たちの成長、安全を支える活動
- 34 教育支援



CEO メッセージ

「より良い未来のために、皆さまとともに」を実現するために 環境・社会における役割と責任、マクドナルドの“想い”

2023年、景気は緩やかな回復傾向となりましたが依然としてインフレの進行、原材料費の高騰、為替の変動など、事業環境は予断を許さない状況が続きました。日本マクドナルドはそのような中でも、お客様に魅力的な商品をお届けし、より満足度の高い店舗体験を感じていただくために、様々な取り組みを行ってまいりました。このサステナビリティレポート2023では、日本マクドナルドのサステナビリティに関する方針や目標、そして2023年の取り組みと進捗状況について報告しています。多くのステークホルダーの皆さまに情報を開示することで、持続可能な環境・社会の実現に向けた想いの共有につながれば幸いです。

私たちの存在意義: Our Purpose「おいしさと笑顔を地域の皆さまに」は、いつの時代も変わらない、マクドナルドの世界共通の“想い”を表現したものです。Our Purposeを実現し続けるため「何を行うべきか」を私たちの使命: Our Missionに、「どのように実現するか」を私たちの価値観: Our Values に定め、全国約3,000店舗で働く約20万人のクルーや社員一人ひとりが常に意識し、行動しています。“おいしさと Feel-Good なモーメントを、いつでもどこでもすべての人に。”、最高のQSC&V (Q = Quality / 品質、S = Service / サービス、C = Cleanliness / 清潔さ、V = Value / 価値)をお客様にご提供し続けることはもちろん、私たちのスケールの大きさ

を活かした活動や、お客様や地域の皆さまとの結びつきを深める取り組みにより、コミュニティの一員として、豊かな未来の創造や持続可能な環境・社会に貢献していきたいと考えています。マクドナルドのビジネスは様々なステークホルダーの皆さまとの関係の上に成り立っており、全国の店舗をご利用いただいている多くのお客様、地域に根差して店舗運営を担ってくださっているオーナーオペレーターや、サプライヤーの皆さまとの連携を主軸に、より良い未来に向けた人々の幸福や安全に関わる取り組みを推進しています。これからも環境、社会、ガバナンス(ESG)において、私たちの役割と責任を果たし、環境、社会、企業の長期的かつ安定的な成長を目指してまいります。

会社概要

会社概要

日本マクドナルド株式会社

所在地	〒163-1339 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー
設立	1971年(昭和46年)5月1日
資本金	1億円
事業内容	ハンバーガー・レストラン・チェーンの営業並びにそれに付帯する一切の事業
店舗数	2,982店
売上高	7,777億円(直営店・フランチャイズ店合計売上)
社員数	2,633人(契約社員を除く) アルバイト従業員 約20万人(直営店・フランチャイズ店合計)

※数値は2023年12月現在

報告の対象範囲ほか

報告対象組織	日本マクドナルド株式会社(一部日本マクドナルドホールディングス株式会社を含む)
報告対象期間	2023年1月1日~2023年12月31日
報告対象分野	社会的責任関連全般(環境・社会・ガバナンス)
作成部	コミュニケーション&CR本部

Our Purpose

私たちの存在意義

おいしさと笑顔を地域の皆さまに

Our Mission

私たちの使命

**おいしさとFeel-Goodなモーメントを、
いつでもどこでもすべての人に。**

Our Values

私たちの価値観



Serve
サーブ

お客様とピープルを
第一に考えます



Inclusion
インクルージョン

オープンドアの精神で
多様性を活かします



Integrity
インテグリティ

常に正しいことを
します



Community
コミュニティ

地域に
貢献します



Family
ファミリー

力を合わせて
成長します

マクドナルドシステム

サプライヤー

「サプライヤー行動規範」の遵守と責任ある調達

サプライチェーンにおける物流の効率化

自然および生物多様性と生態系の保護

サプライチェーンにおける森林への取り組み

サプライチェーンにおける人権の尊重

アニマルヘルス&ウェルフェア

当社の事業、従業員およびフランチャイジー

食品安全

生産地からお客様に届くまでの食品安全を管理

パッケージ・ハッピーセット®のおもちゃ・食品の2R

プラスチックおよび廃棄物の削減

オフィスが排出する温室効果ガスの削減

すべてのレストラン・オフィスビル

(直営およびフランチャイズ店舗)

店舗における温室効果ガス排出量削減

地域材を使用した店舗のデザイン

プラスチック削減の推進と

FSC®認証材やリサイクル素材の使用

お客様向けの商品に対する責任

栄養バランスに配慮した食事の提供

栄養情報の開示

従業員

ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン (DE&I)

人材育成とキャリア

安全で尊重しあえるインクルーシブな職場環境

地域社会

チャリティ文化の醸成

ドナルド・マクドナルド・ハウスの支援

子供たちの成長を支える活動

キッズスポーツ支援、子育て支援、教育支援

地域の安全安心を守る取り組み・美化活動

地域における雇用



サステナビリティ方針と戦略

より良い未来のために、皆さまとともに

毎日多くのお客様をお迎えし、お食事をご提供している私たちには、大きな責任があります。それは、世界が抱えるあらゆる課題に、地域社会の一員として立ち向かうこと。

そう考えるから

私たちはこれからも、安全安心で品質がよい食事を提供し続けます。

気候変動対策に真摯に向き合います。

地域に暮らしている人々の毎日を支援します。

あらゆる人がいきいきと働き成長できる機会を増やします。

すべては、おいしさと笑顔を地域の皆さまにお届けするため。これからも私たちは、歩み続けます。

サステナビリティ戦略

「環境・社会・ガバナンス(ESG)」の様々な課題について責任を果たすべく、「安心でおいしいお食事を」「地球環境のために」「地域の仲間にサポートを」「働きがいすべての人に」の4つに重点をおき、私たちの強みと規模を生かして取り組んでいます。

サステナビリティに関する一連の取り組みは、執行役員コミュニケーション&CR本部長の監督のもと、管轄部署であるサステナビリティ&ESG部が推進しています。サステナビリティ&ESG部では、個別に推進されるサステナビリティに関する取り組みについてその進捗や状況を集約し、その活動を通じて全社的なサステナビリティに関する戦略立案や計画策定を行っており、集約されたESGに関する取り組みは、担当執行役員を通じて代表取締役兼CEOに報告され、定期的(年1回以上)に取締役会へ報告されます。

ガバナンス

株主をはじめ、顧客、従業員、フランチャイジー、サプライヤーなどのすべてのステークホルダーの利益の最大化に努めると共に、経営の透明性・効率性を高め、当社の持続的な企業価値の向上を実現することが重要であると考えます。このため、経営の意思決定・監督機能と業務の執行機能を分離し、適時的確かつ効率的な経営・執行体制の確立を図り、社外取締役の参加による透明性の高い経営の実現に取り組んでいます。

Our Planet
地球環境のために

地球のため、将来のために、気候変動対策に真摯に向き合います



Food Quality & Sourcing
安心でおいしいお食事を

安全安心で高品質なお食事を提供し続けます



Jobs, Inclusion & Empowerment
働きがいすべての人に

あらゆる人がいきいきと働き成長できる機会を増やします



Community Connection
地域の仲間にサポートを

地域に暮らしているすべての人の毎日を支援します



4つの重点領域

ビジネス・レジリエンス

コンプライアンスを含むその他のすべてのリスクと共に、全社リスク管理委員会にて、その特定と評価並びに管理を行っています。全社リスク管理委員会は、原則四半期に1度開催し、さらに重要リスクについて個別に審議が必要と判断した場合に臨時開催しており、その取り組みは定期的(原則年1回)に取締役会へ報告しています。

注力するSDGsの目標



詳しくは当社HPをご覧ください。

<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/sdgs/>

「サステナビリティに関する考え方や取り組み」については、2023年12月期 有価証券報告書(2024年3月27日開示)にも記載しております。あわせてご参照ください。

https://www.mcd-holdings.co.jp/ir/library_financial_report/

2023年ハイライト

Our Planet

地球環境のために



気候変動への対策

→ P12

マクドナルドがグローバル全体で推進する目標

- ・2050年までにネット・ゼロ・エミッション達成
- ・2030年までに温室効果ガス排出量を50.4%削減（2018年比）

温室効果ガス*の排出量
オフィス

291t 2018年比 ▲33.1%

直営店舗・フランチャイズ店舗

331,622t 2018年比 ▲16.1%

*電気とガスの排出量

再生可能エネルギーの導入店舗数

約350店舗



パッケージ、ハッピーセット®のおもちゃ、食品の2R

→ P14

2025年末までに「すべてのお客様提供用パッケージ類を、再生可能な素材、リサイクル素材または認証された素材に変更する」「すべてのハッピーセットのおもちゃを再生可能な素材、リサイクル素材または認証された素材など、サステナブルな素材へ移行する」という目標を掲げています。

マクドナルドがグローバル全体で推進する目標

- ・2025年末までにお客様向けパッケージの100%を再生可能、リサイクル、または認証済み素材に切り替える
- ・ハッピーセットのおもちゃにおけるプラスチック削減を進め、サステナブルなおもちゃを提供する

お客様向け紙製容器包装類
FSC®認証素材

100%使用

パッケージのサステナブル素材への
移行によるプラスチック削減量

年間約**900t**

廃食用油（フライオイル）の
リサイクル率

ほぼ**100%**

食品ロス率

2.3%

食品リサイクル率

68.6%

回収したおもちゃの数

累計約**1,900**万個

おもちゃリサイクルで作られたトレイの数

累計約**512,500**枚

2023年ハイライト

Food Quality & Sourcing

安心でおいしいお食事を

食品安全

→ P17

原材料の生産からお客様の手に渡るまで、サプライヤーや専門家と連携し、様々な基準を満たした商品の提供に取り組んでいます。

Global G.A.P. Plus Add-on 認証を受けたレタス生産者の割合

100%

SQMS 要求事項を満たしたサプライヤーの割合

100%

※SQMS:GFSI規格要求事項に独自項目を追加した、さらに厳しい食品安全マネジメントシステム

DQMP 第三者による監査を実施し、当社の基準を満たした配送センター数・割合

15センター 100%

※DQMP: 物流倉庫品質マネジメントプログラム

外部の検査会社を通じて実施された監査としての要件を満たした店舗数・割合

約3,000店舗 100%



お子様向けの商品に対する責任

→ P20

より安全に安心してお召し上がりいただけるハッピーセット®をご提供しています。

ハッピーセットにおける合成香料、合成着色料の除去

100%

責任ある調達

→ P21

森林、水資源、生態系に配慮した、サステナブルな原材料の調達を積極的に進めています。

MSC 認証取得漁業で獲られたフィレオフィッシュ®の白身魚の割合

100%

フライオイルのバーム油の RSPO 認証

100%

コーヒー豆の レインフォレスト・アライアンス 認証

100%

お客様向け紙製容器包装類および紙ストロー、木製カトラリー類、トレイマットの FSC® 認証

100%

アニマルヘルス&ウェルフェア

→ P22

2023年ハイライト

Jobs, Inclusion & Empowerment

働きがいすべての人に

ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)

→ P24

多様な人材が活躍し、誰もが自分らしく働きながら成長し、働きがいを感じることでできる職場環境の実現を目指しています。

若い世代のクルー (24歳以下)

約**130,000**人

プレミアムエイジクルー (60歳以上)

約**11,500**人

全国クルー人数

約**200,000**人

外国人クルー

約**18,000**人

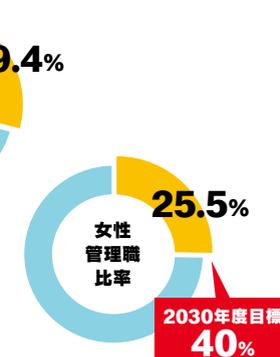
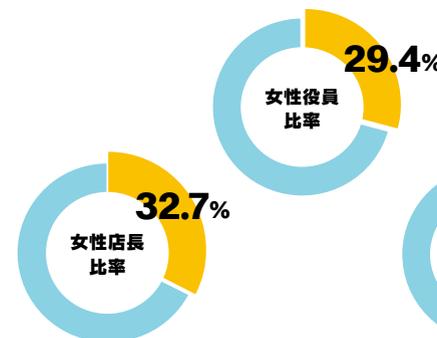
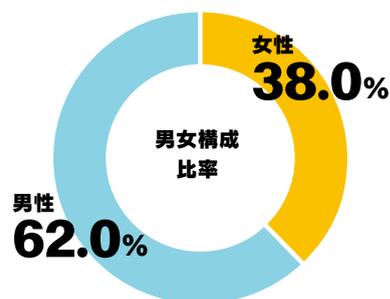
障がい者雇用比率

2.3%

※日本マクドナルド直営店舗の割合

日本マクドナルド全社員数

2,633人



2030年度目標 **40%**

従業員エンゲージメント

89%

※対象は直営従業員(社員・クルー)

育児休業取得後の復帰率

100%

離職率

6.2%

男性の育児休業取得率

29%

※2023年直営常時雇用労働者の取得率

全社員月間平均残業時間

18.4時間

出産・育児・介護休業制度利用者

105名

※直営社員(日本マクドナルド株式会社社員)の数値



人材育成とキャリア

→ P27

日々のトレーニングや専門教育機関における成長機会を提供し、自らの選択と努力次第でどこまでも成長できる「Up to You」なキャリア構築を支援しています。

1年間にハンバーガー大学の授業を受講する社員およびクルー

約**14,000**人

クルー経験のある社会人

約**300**万人

安全で尊重しあえるインクルーシブな職場環境

→ P29

全世界共通の基準である「Global Brand Standards」を導入し、Our Values(私たちの価値観)のもと、安全で尊重しあえるインクルーシブな職場環境を推進しています。



2023年ハイライト

Community Connection

地域の仲間にサポートを

ドナルド・マクドナルド・ハウスの支援

→ P31

コミュニティの一員として子供たちの幸せな未来、そしてお客様や地域・社会の皆さまの笑顔を第一に考え取り組んでいます。

お客様から募金いただいたDMHC®支援総額
(店頭募金、募金付きクーポンによる募金、モバイルオーダーからの募金を含む)

総額約 **15,407** 万円

お寄せいただいた募金は、すべてドナルド・マクドナルド・ハウス財団 (DMHC) へ寄付させていただいており、ハウスの運営や建設などに使われています。

キッズスポーツ支援

→ P32

第54回マクドナルド全国ミニバスケットボール大会

全国約 **8,350** チーム

高円宮賜杯 全日本学童軟式野球大会
マクドナルド・トーナメント

全国約 **10,000** チーム

支援児童約 **41** 万人

JFA 全日本U-12サッカー選手権大会

全国約 **8,200** チーム

支援児童約 **36** 万人

子供たちの成長、安全を支える活動

→ P33

子育て支援におけるハッピーセット®販売数

491,904 セット

「こども110番の家」実施店舗数

2,365 店舗

安全苗贈呈数

計 **789,850** 個

トルコ・シリア地震 災害支援 (日本マクドナルド寄付額)

1,000,000 円

教育支援

→ P34

食育授業支援
授業・指導実施回数/受講児童・生徒数

597 回 **19,242** 人





地球環境のために

Our Planet

地球のため、将来のために、気候変動対策に真摯に向き合います。「2050年までにネット・ゼロ・エミッション達成」という目標に向け、世界的な気候変動や環境課題に社会の一員として積極的に取り組み、環境保全に寄与すると共に、事業活動における環境負荷軽減を常に検討し、行動していきます。

私たちは気候変動への対策、より持続可能なパッケージやハッピーセット®のおもちやの素材への移行に取り組んでいます。2030年までに「店舗とオフィスでは2018年比で温室効果ガス排出量を50.4%削減」「サプライチェーンでは2018年比温室効果ガス排出量を50.4%削減(施設、ロジスティクス、プラスチック包装の排出において)、16%削減(牛肉<乳牛を含む>と鶏肉において)」の目標を掲げています。

Our Planet

12 気候変動への対策

14 パッケージ、ハッピーセットのおもちや、食品の2R

気候変動への対策

マクドナルドに関わるすべての事業活動において、常に気候変動対策に向き合います。

「2050年までにネット・ゼロ・エミッション達成」を目指して、事業活動における温室効果ガス排出量の削減に向けた様々な取り組みを実施しています。



温室効果ガスの排出量

2018年、2023年の当社オフィス、店舗の温室効果ガス*の排出量は以下の通り。

*電気とガスの排出量

オフィス

当社オフィスが排出する温室効果ガス

2023年 **291t** 2018年比 ▲33.1%

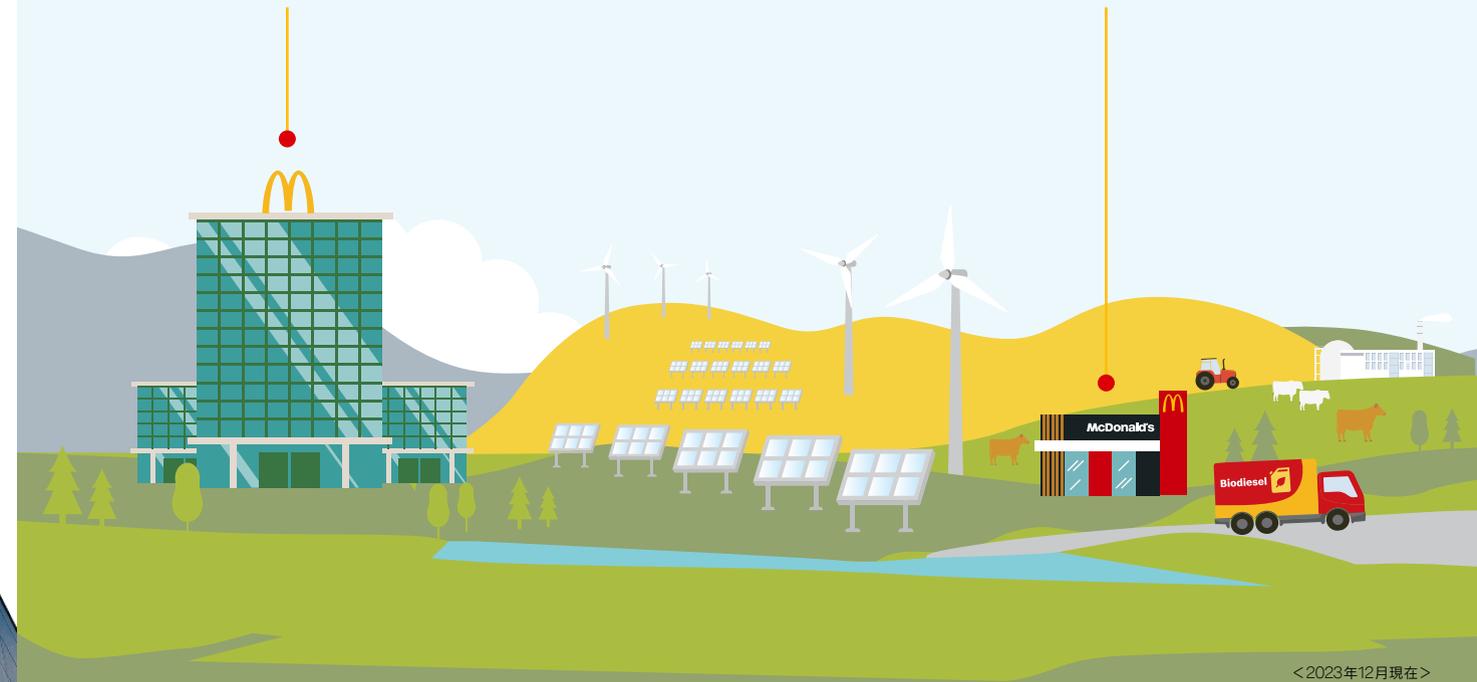
2018年 **435t**

直営店舗・フランチャイズ店舗

当社が運営する直営店舗・フランチャイズ店舗が排出する温室効果ガス

2023年 **331,622t** 2018年比 ▲16.1%

2018年 **395,344t**



脱炭素に向けた取り組み

「2050年までにネット・ゼロ・エミッション達成」に向けて、2030年までに「店舗とオフィスでは2018年比で温室効果ガス排出量を50.4%削減」「サプライチェーンでは2018年比で温室効果ガス排出量を50.4%削減(施設、ロジスティクス、プラスチック包装の排出において)、16%削減(牛肉・乳牛を含む>と鶏肉において)」と目標を掲げ、店舗でのエネルギー管理や再生可能エネルギーに由来した電力の導入、省エネ機器の導入など環境負荷の最適化に努めています。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/environment/>



省エネルギーの実施

従業員が店舗の機器の点検や清掃を決められたスケジュールに従って実施。メンテナンスを誰もができるようにカレンダー化された「ブランドメンテナンスシステム」を導入することで、機械効率を維持し無駄なエネルギーを削減しています。

物流の効率化

食材・資材運搬時の使用エネルギーを削減する取り組みとして、サプライチェーンにおける配送業務等の平準化・効率化、資材のモーダル輸送などを実施しています。



地球にやさしい電力の導入

太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーに由来した電力の導入を進めています。2023年には、関西エリア134店舗で導入し、約350店舗になりました。これにより、店舗の照明や空調などの電気機器の使用に伴うCO₂排出量ゼロを目指しています。また、店舗の屋根を有効活用する太陽光パネルのテスト設置も進めています。省エネ施策を深化させつつ、より環境負荷の低いエネルギーの使用を進めてまいります。



農林水産省と「建築物木材利用促進協定」を締結

2023年2月、農林水産省 林野庁と連携・協力し国産木材の活用を推進する「建築物木材利用促進協定」を締結しました。



構想の達成に向けた取り組みの内容

- 今後建設予定の店舗において、一店舗あたり一定量以上の地域材を利用する設計を基本とし、3年間で計5,550m³の地域材を利用する。
- 店舗建設の際、クリーンウッド法に基づく登録木材関連事業者により合法性が確認された木材を利用する。
- 木材利用の意義やメリットについて、積極的に情報発信する。



パッケージ、ハッピーセット®のおもちゃ、食品の2R

プラスチック削減、サステナブルな素材、リサイクルを推進しています。

2025年末までに「すべてのお客様提供用パッケージ類を、再生可能な素材、リサイクル素材または認証された素材に変更する」「すべてのハッピーセットのおもちゃを再生可能な素材、リサイクル素材または認証された素材など、サステナブルな素材へ移行する」という目標を掲げています。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/environment/>

プラスチック削減の取り組み

お客様提供用パッケージ類のプラスチック削減を進めています。また、お客様に提供する紙製の容器包装類は、すべて森林環境や地域社会に配慮して作られたFSC®認証を取得した紙・木材を使用しています。提供時はおお客様にご協力いただき、「簡易包装」を心がけ、お客様の状況やニーズを考えて対応をしています。



「サイドサラダ」の紙製容器への移行

2023年11月からは「サイドサラダ」を紙製容器で提供しています。パッケージのサステナブル素材への移行によるプラスチック削減量は約1,350tになる見込みです。

※2020年度出荷数ベース

紙製ストロー・木製カトラリーの導入

2022年10月からは全国の店舗にて、紙製ストロー、木製カトラリーを提供しています。

※お子様用ストローとマックシェイク®など一部商品用ストローはプラスチックストローで提供しています。



ハッピーセット®のおもちゃのプラスチック削減とリサイクル

再生可能な素材などサステナブルな素材を使用したハッピーセットのおもちゃへの移行を進めています。また、プラスチックのおもちゃを対象にした国内最大規模の「ハッピーセットのおもちゃリサイクル」を実施しています。

サステナブルな素材を使用したおもちゃ

2018年からはハッピーセットのおもちゃに図鑑や絵本を導入、2021年からは紙製おもちゃを導入、2022年からは紙製おもちゃの包装材もFSC®認証を取得した紙製に変更、2023年はバイオプラスチックを利用したおもちゃも導入しました。



<バイオプラスチック製のおもちゃ>
マイメロディ・クロミ
©2023 SANRIO CO.,LTD.
APPROVAL NO. L639017



<紙製のおもちゃ>
ことばのパスル
もじびつたん™
©Bandai Namco Entertainment Inc.

おもちゃリサイクル

ハッピーセットのおもちゃを全国の店舗で回収しリサイクルするプロジェクトを2018年から行っています。

リサイクルへの参加や、店内で使われている緑色のトレイを見ることは、子供の時期から環境について考えるきっかけづくりにも寄与しています。

回収したおもちゃの数

累計

約**1,900**万個

おもちゃリサイクルで作られたトレイの数

累計

約**512,500**枚

https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/environment/toy_recycling/

食品の2R

食品ロス削減(Reduce)、食品リサイクル(Recycle)の2Rに取り組み、不可食部分の資源化や食品廃棄量の削減、食品廃棄による温室効果ガス排出削減を目指しています。

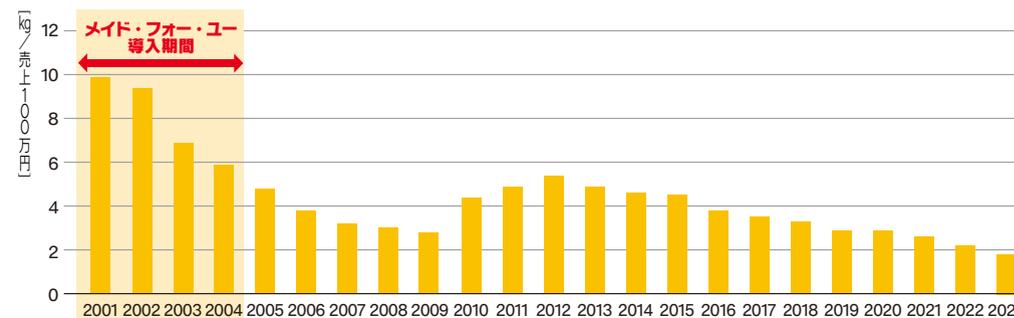


食品ロス削減の取り組み(Reduce)

「メイド・フォー・ユー(MFY)」システムの導入

2001年から、マクドナルドでは注文を受けてからバーガー類を調理するオリジナルのシステム「メイド・フォー・ユー(MFY)」を導入しています。お待たせせずにできたてのおいしさを提供できると共に、以前の作り置きシステムに比べ、完成品商品の廃棄量が大きく減少しました。

売上100万円あたりの商品廃棄量



食べ残しを減らす取り組み

「食べ残し」による食品ロスの削減を目指して、お客様と共に取り組んでいます。マクドナルドでは様々なメニューやサイズを提供しており、お客様ご自身で食べ切れる量をお選びいただけます。ドリンクに添える砂糖やコーヒーフレッシュなどのコンテメントにおいても、お客様にお伺いしたうえで必要な量をご提供しています。

食品ロス率

2.3%

※可食部の廃棄量(kg) ÷ 食品の仕入れ量(kg)にて算出

食品リサイクル(Recycle)

食品リサイクル法に定められた優先順位に則り、飼料化、肥料化、バイオマス燃料化を行っています。

生ごみは、東京都の一部店舗で飼料化、肥料化、メタンガス化を実施。

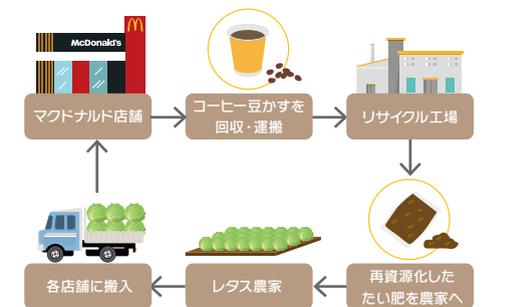
廃食用油(フライオイル)は全店舗にてほぼ100%を主に鶏の配合飼料化。ポテトのあげかすも大阪府の一部店舗で飼料化を実施しています。

コーヒー豆かすを兵庫県姫路市の一部店舗でたい肥として再資源化し、香川県の農家と協働し、このたい肥を使用して栽培したレタスを商品としてお客様へ提供する循環型リサイクルにも取り組んでいます。

食品リサイクル率*

68.6%

※食品リサイクル定期報告に基づく発生抑制を含む



安心でおいしいお食事を

Food Quality & Sourcing

私たちは、食の安全をすべてに優先させます。
そのため「安全・品質・衛生」において世界最高の食品管理システムを目指して、たゆまぬ努力を続けています。
この理念を食材や資材の調達からお食事のご提供まで、それぞれに関わるマクドナルド、フランチャイジー、サプライヤーで共有し、倫理的で誠実な行動ができるシステムを、これからも構築していきます。

マクドナルドの世界規模のサプライチェーンを通じて、安全安心で高品質なお食事を提供することはもちろん、栄養バランスに配慮したメニューのご提供、アニマルヘルス & ウェルフェアにも真摯に取り組んでいきます。

Food Quality & Sourcing

- 17 食品安全
- 20 お子様向けの商品に対する責任
- 21 責任ある調達
- 22 アニマルヘルス&ウェルフェア

食品安全

安全安心で高品質なお食事を提供し続けます。

食の安全に終わりはありません。

私たちは、世界最高の食品管理システムを目指して、たゆまぬ努力を続けています。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/food/>

食品安全戦略

原材料の生産からお客様の手に渡るまで、サプライヤーや専門家と連携し、様々な基準を満たした商品の提供に取り組んでいます。

食品安全のリスク管理

原材料の生産からお客様に提供されるまで、数々の食品安全のリスクを軽減させるために、サプライヤー品質マネジメントシステム(SQMS)や物流倉庫品質マネジメントプログラム(DQMP)などの様々な厳格な規格を満たしているかを確認しています。

食品安全文化の構築

安全安心な食品を提供する事業者として、すべての従業員が食品安全の考え方、価値観に対する教育を受けています。マクドナルドとの活動を通じて各サプライヤーにおける食品安全文化の醸成を促進し、より強固な仕組みづくりを目指しています。

GAP (農業生産工程管理)

Global G.A.P. Plus Add-on 認証を受けたレタス生産者の割合

100%



SQMS*

SQMS 要求事項を満たしたサプライヤーの割合

100%



DQMP

(物流倉庫品質マネジメントプログラム)

第三者による監査を実施し、当社の基準を満たした配送センター数と割合

15センター 100%



店舗の外部衛生監査

外部の検査会社を通じて実施された監査としての要件を満たした店舗数・割合

約3,000店舗 100%



*GFSI規格要求事項に独自項目を追加した、さらに厳しい食品安全マネジメントシステム

生産地から店舗までの品質保証体制

私たちがお客様へ提供する商品は、生産地から加工工場、物流、店舗での調理までをGFSI 認証規格レベルといった国際規格に基づいた独自の品質・食品安全マネジメントシステムによって管理しています。

店舗では、PACE、HACCPといった製品の安全性を確保しようとする衛生管理の手法を導入し管理しています。

サプライヤー基本原則

「責任ある調達」を行うためには、まず高品質な食材を生産する姿勢、技術、管理、社会的責任性を持つサプライヤーの皆さまを非常に重要な存在と考え「サプライヤー行動規範」の遵守を求めています。これはサプライヤーがマクドナルドとパートナーシップを組むための基本原則で、関連法令の遵守、人権、労働環境、環境保全、事業運営の完全性が規定されています。また、行動規範の具体的な内容は「サプライヤー職場環境管理プログラム(SWA)」としてまとめられ、それに基づく実行と維持がサプライヤーに求められます。

サプライヤー行動規範

関連法令の遵守	人権	労働環境	環境保全	事業運営の完全性
---------	----	------	------	----------



サプライヤー職場環境管理プログラム (SWA)

行動規範の着実な実行と維持のため、
監査制度を導入したプログラム

GAP 農業生産工程管理

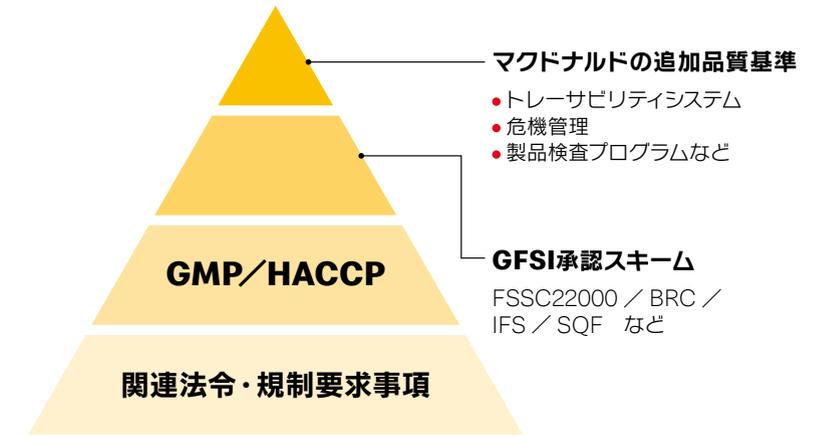
2010年よりGAP 認証取得の取り組みを開始し、2023年現在、レタス生産者の100%がGAP 認証を取得しています。GAP には、土壌や使用する水についての調査、適切な畑の管理、農薬の取り扱いなど、生産工程を管理するための100を超える要求項目があります。2022年からはGlobal G.A.P.*とマクドナルドGAP を合わせたGlobal G.A.P. Plus Add-onを導入しており、食の安全をより確実なものにしています。

※適正農業規範に関する国際標準



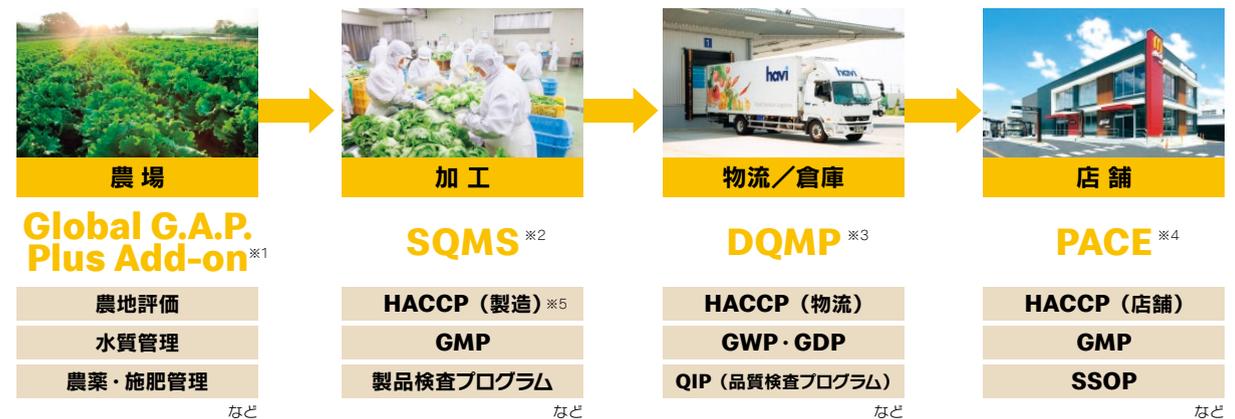
食材の製造工程管理

関連法令・規制要求事項を基に、世界食品安全イニシアチブ(GFSI)に準拠した食品安全管理システムにマクドナルドの追加品質基準を加えた、サプライヤー品質マネジメントシステム(SQMS)で、製造工程を管理しています。官能評価、微生物検査、理化学検査など、様々な検証・確認を実施し、品質保証を行っています。



トレーサビリティ

原材料から最終製品までの全工程の生産履歴を追跡できるシステムを持っています。これにより、万が一のトラブルに対して速やかな対応と原因の追求を可能にしています。



監査プログラムによるシステムの有効性確認

※1 Global G.A.P. Plus Add-on : 農業生産工程管理 ※2 SQMS : サプライヤー品質マネジメントシステム ※3 DQMP : 物流倉庫品質マネジメントプログラム
※4 PACE : カスタマーファーストとピープルファーストに根ざした、オペレーション改善およびコンサルティングプラットフォーム ※5 HACCP : 危害要因分析重要管理点

店舗の衛生管理

私たちは、お客様に安心してマクドナルドをご利用いただけるよう、店舗においてもあらゆる面で衛生管理を徹底しています。

店舗の安全・安心を支える取り組み

店舗における食材の管理・調理・販売にいたる衛生管理は私たちにとって果たすべき重要な責任です。原材料の温度管理、調理時の温度計測はもちろんのこと、水質チェックやフライオイルの劣化測定など様々な検査を行い、日々安全性の確認を行っています。

<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/food/sanitation/>



手洗いの徹底

最低1時間に1回手洗い確認を行い、クルーは指からひじまで、丁寧な手洗いを徹底しています。



調理器具の洗浄・消毒

調理器具は定期的に洗浄・消毒し、常に清潔な状態で使用しています。



アルコール消毒の徹底

接触の多いドアの取っ手やお食事スペースなどのアルコール消毒を徹底しています。

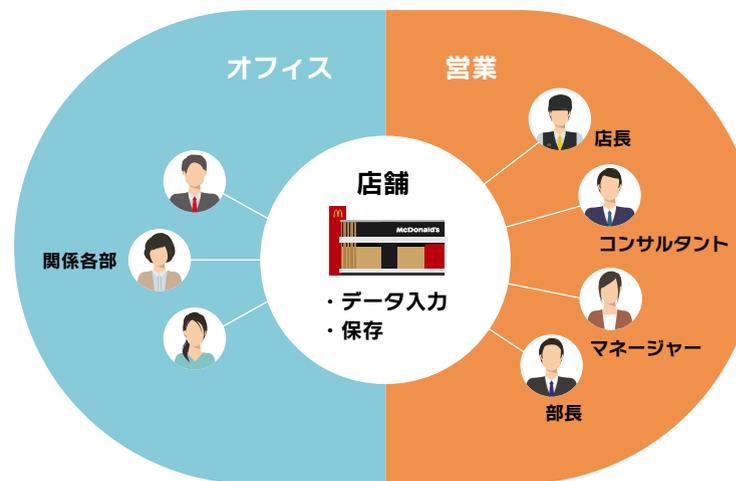


デジタルフードセーフティによる一元管理・保存

国内全店にタブレット端末「デジタルフードセーフティシステム」を導入し、食の安全・安心に特化した取り組みとして毎日「フードセーフティのチェック」を行っています。

タブレット端末とBluetooth対応温度計を用いた食品の温度計測、衛生管理、清潔な厨房環境の維持、調理手順、従業員の行動確認など、30項目を超えるチェックポイントを効率的かつ正確に実施しています。

万が一問題が発生した場合、原因追及のアラートが出され、再計測などその場で解決手段を提示し、速やかな対応を行っています。



お子様向けの商品に対する責任



子供たちの健やかな成長を支えるために、豊富な選択肢のあるメニューを提供しています。

私たちはお客様の声に耳を傾け、時代に合わせて、変わり続けています。お客様に親しまれているおいしさを維持しながら、メニューを進化させる方法を模索しています。お客様に様々な選択肢を提供し、ご家族で楽しいひと時を共有し、いつまでも残る思い出を作ります。



より安全で安心なハッピーセット®をご提供するために



ハッピーセットを年間約1億食もご提供する私たちには責任があります。より安全で安心なハッピーセットを楽しんでいただけるよう取り組んでいます。

ハッピーセットにおける指針

- 1 栄養バランスに配慮したメニューのご提供。
- 2 食材の添加物の使用を控える。
- 3 ハッピーセットの栄養情報を開示する。
- 4 責任あるマーケティングを行う。
- 5 広告宣伝における栄養バランスへの配慮。

栄養バランスへの配慮

ハッピーセットのサイドメニューは、マックフライポテト®だけでなく、えだまめコーンやサイドサラダもお選びいただけます。お子様の成長や食事の機会に合わせ、栄養バランスを考えた選択をしていただけます。

合成香料、合成着色料の除去

ハッピーセットは合成香料、合成着色料を使用していません。また、合成保存料の削減にも取り組んでいます。

栄養情報の開示

ハッピーセットに限らず、すべての商品のアレルギー・栄養・原産国情報を公式ウェブサイトおよび公式アプリでお知らせしています。



https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/food/allergy_Nutrition/



責任ある調達

地球環境や生物多様性、サプライチェーンで働く人々のことを考えています。

私たちのサプライチェーンは、様々な国、産業とつながっています。マクドナルドはサプライヤーや生産者と共に責任ある調達に取り組んでいます。



持続可能な食材・資材の調達

森林、水資源、生態系に配慮した、サステナブルな原材料の調達を進めています。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/food/>

FSC® 認証 (森林保全)

お客様向け紙製容器包装類、トレイマットおよび木製カトラリー類は、すべてFSC認証を取得した紙・木材を使用しています。

詳しくはFSCジャパンのHPをご覧ください



MSC 認証 (水産資源保全)

フィレオフィッシュ®の白身魚は、MSC認証を取得し、持続可能で環境に配慮した漁業で獲られたスケソウダラを使用しています。

詳しくはMSCジャパンのHPをご覧ください



MSC-C-57384

レインフォレスト・アライアンス 認証 (持続可能な農業)

お客様に提供しているコーヒーは、森林や生態系を守り、労働者に適切な労働条件を提供するレインフォレスト・アライアンス認証を取得した農園が栽培するコーヒー豆を100%使用しています。

詳しくはレインフォレスト・アライアンスのHPをご覧ください



RSPO 認証 (持続可能なパーム油の調達)

パーム油は環境や地域社会に配慮して生産されないと、熱帯雨林や様々な生物の大規模な消失に直接影響を及ぼします。フライオイルは、持続可能なパーム油であるRSPO認証を取得しています。



ビーフ

森林破壊を伴わないサプライチェーンによるビーフの調達を目指しています。グローバルでは98.5%まで達成できています。



大豆

チキンの生育に必要となる飼料大豆については、責任ある大豆に関する円卓会議(RTRS)認証のクレジットを購入しています。



アニマルヘルス&ウェルフェア



動物の健康と福祉に、より配慮した調達を目指してグローバルマクドナルド全体で取り組んでいます。

安全で高品質な食品を提供するためには、その一生を通じて適切に飼育された家畜が不可欠であり、サプライヤーおよび生産者の理解と協力も欠かせません。

📖 グローバルマクドナルドのアニマルヘルス&ウェルフェアの取り組みはこちらをご覧ください

アニマルヘルス&ウェルフェア

マクドナルドは原料原産地の食肉処理場に対して **Animal Health & Welfare(AHW)**、**HACCP / GMP**、**BSE Firewall**、**サプライヤー職場環境管理プログラム(SWA)**等の要求事項を遵守するよう求めており、これらの要求事項を満たしていることを確認するため原料原産地のマクドナルド、サプライヤー、監査会社と協働して監査を実施しています。**AHW**の監査では牛/鶏/豚の性質や食肉処理工程に応じて家畜が人道的な扱いのうえで屠畜(食肉処理)されているかを確認しています。これらの監査で基準を満たした食肉処理場は承認供給者として **Approved Supplier List(ASL)**に掲載され、マクドナルドのサプライヤーは **ASL**に掲載された食肉処理場のみから原料肉を調達することができます。日本マクドナルドで使用しているビーフ・チキン・ポークは、こうしたマクドナルドの調達基準に即したサプライチェーンを通じて調達されています。



ビーフ

飼育から食肉に加工されるまで、動物の健康と福祉に配慮しています。日本マクドナルド向け製品では成長促進を目的とした抗生物質の使用が禁止されました。



チキン

より良い環境で飼育された鶏の調達に取り組んでいます。日本マクドナルド向け製品では成長促進を目的とした抗生物質の使用が禁止されました。



ポーク

より良い環境で飼育された豚の調達に取り組んでいます。





働きがいすべての人に

Jobs, Inclusion & Empowerment

持続可能な未来の鍵となるのは、「人」であると考えています。

誰もがいきいきと活躍できる、安全でインクルーシブな職場環境づくりを全力で進めています。

People Vision

(ピープルビジョン)

マクドナルドは、
世界中どの街でも、
ベストな雇用主となる

People Promise

(ピープルプロミス)

マクドナルドは従業員の皆さんと
その成長および貢献を、
価値のあるものとして大切にします

創業者レイ・A・クロックの言葉にあるとおり、「私たちはハンバーガービジネスではない、「ピープルビジネス」だ」と考えています。

すべての従業員に成長の機会を提供し、誰もが活躍できる働き方の推進や職場環境の実現を目指すと共に、立場の異なる社員やフルー同士が互いに成長を助け、高め合う風土を育てています。これからもマクドナルドに関わる一人ひとりの未来や、社会全体がより良いものになる活動を続けていきます。

Jobs, Inclusion & Empowerment

24 ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)

27 人材育成とキャリア

29 安全で尊重しあえるインクルーシブな職場環境

ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン (DE&I)



Our Values (私たちの価値観)のもと、多様性が持つ力を発揮できるインクルーシブな環境を育んでいます。インクルージョンはマクドナルドらしさの源であり、これまでの取り組みをさらに前進させるべく努力を続けています。

マクドナルドは、多様性に富んだお客様にご利用いただいています。多様なお客様の期待に応え、そして急速に変化する時代に適応していくためには、私たちにも多様性が求められます。今後も性別や年齢、国籍などを問わず幅広く雇用機会を提供すると共に、個々のエンゲージメントをさらに高め、やりがいを持って働ける環境づくりに努めます。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/people/>



DE&Iの実現に向けて

多様な人材が輝くためには、様々な働き方のニーズに応えなければなりません。従業員の声に耳を傾け、制度の整備や見直しをすることはもちろん、制度をいかに活用しやすいものにするかが大切であると考えています。利用する従業員だけでなく、同僚や上司の理解を促進するため、セミナーや社内ワークショップを実施して「インクルーシブな職場環境の構築のために何ができるか」を従業員全員が考える場を設けています。



多様な人材の活躍推進

● **ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン推進のための「オープンドア/チーム」**
 オープンドア/チームは、多様な人材が力を発揮できる環境づくりをサポートするプロジェクトとして生まれました。トップマネジメントがスポンサーとなり、全社各部門の有志が、DE & I

の実現に向けた取り組みを、社内にとどまらず大学や他企業、関連団体と連携しながら展開しています。「個性」を尊重し、孤立を避け、相互に補い合い、受け入れ合う「オープン」な組織づくりをサポートし、ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョンを推進しています。

多様な人材の活躍推進

全国の店舗では、性別や年齢、国籍の異なる多様なクルーが働いています。

誰にとっても働きやすく、働きがいのある職場づくりを推進し、
多くの人に働く機会を提供しています。

全国クルー人数

約 **200,000** 人

※クルー人数はいずれも
直営店舗・フランチャイズ店舗合計

●若い世代

若い世代の方々に対して、働く機会、成長の機会を積極的に提供しています (Youth Opportunity)。日本では、約20万人のクルーのうち、6割以上の約13万人が24歳以下のクルーです。これから社会に出る若者にとって、世代や国籍など様々なバックグラウンドを持つ仲間と一緒に働くことは、非常に価値のある経験です。マクドナルドでの仕事、ハンバーガー大学が提供する充実したカリキュラムを通じて、On The Job でチームワークやリーダーシップのスキルを身につけることができます。これらのスキルは、将来活かせるポータブルスキルとなり、若者がこれから社会で活躍するうえでの原動力となっています。学生のクルーを対象に社会人としての基礎能力向上のためのアセスメントや講習を実施しており、現在約300万人のアルバイト卒業者が社会で活躍されています。そのほか、NPO法人、教育委員会などと連携して、若者就労支援のインターンシップなどを始めています。これからも、マクドナルドは未来を担う若者をサポートしていきます。



若い世代のクルー（24歳以下）

約 **130,000** 人

●プレミアムエイジ（シニア）

社会経験を通じて様々な知識やスキルを得たシニア世代が活躍することは、マクドナルドにとって大きな強みになります。年齢やバックグラウンドが異なるプレミアムエイジクルーと若い世代のクルーなどがお互いに助け合いながら、一人ひとりが自分らしくのびのびと働いています。

プレミアムエイジクルー（60歳以上）

約 **11,500** 人

●主婦・主夫クルー

5人に1人が主婦・主夫クルーとして働いており、主婦・主夫の方が働きやすい環境と制度が整っています。例えば、週1回2時間から働くことが可能で、シフトは週ごとに調整を行うため、家事・育児などご家庭の事情に合わせて柔軟に働くことが可能です。年齢に関係なく働けるため、一度辞めて子育てが落ち着いてから戻ってこられるなど、長期的に活躍いただいています。



●外国人

留学生を中心とした100カ国以上の外国籍のクルーが活躍しています。多言語化したタブレット教材など、個々の強みを活かして働いていただける環境を整えています。日本に暮らすすべての人に働く機会を提供するために、これからも様々な取り組みを推進していきます。

外国人クルー

約 **18,000** 人

●チャレンジクルー（障がい者）

障がいのある方もクルーとして活躍しています。すべての従業員がチームとしてお互いを尊重し支え合うことで、共に働く喜びを分かち合いながら活躍できる場を提供しています。一人ひとりが着実にステップアップしていくためのトレーニングシステムを活用すると共に、オリエンテーションや人材育成の教材はユニバーサルデザインを採用するなど、誰にとっても働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

障がい者雇用比率

2.3% ※日本マクドナルド直営店舗の割合

女性活躍の推進

オープンドア/チームが中心となり、女性社員のキャリア支援、ネットワーキング、リーダーシップ開発等の活動を通じて、女性の活躍を推進しています。

● OPEN DOOR / Woman's Café

女性従業員同士のネットワーク構築のためのコミュニケーション機会として、キャリア不安の解消や女性の健康リテラシーの向上など、自由なコミュニケーションの場を提供しています。



柔軟な働き方を支援する仕組み・制度

社員一人ひとりに合ったワークライフバランスを実現できるよう、ライフイベントも考慮した多様な働き方をサポートする制度の充実および活用促進に取り組んでいます。

● 勤務制度

オフィススタッフはフレックスタイム制と在宅勤務制度、店舗スタッフには変形労働時間勤務制度を採用しています。業務の繁忙期やプライベートに合わせて働く時間・休日を柔軟に変更でき、ワークライフバランスを保ちながら働くことが可能です。さらに、より柔軟に働くことができるよう、「店長フレックスタイム制度」も導入しています。

● 地域社員制度(直営店舗)

2021年から、柔軟な働き方を可能にする新制度として、地域社員制度を導入しました。自身のライフスタイルに合わせた、通勤可能な地域でのキャリアアップを目指すことができます。

● サポート店長制度(直営店舗)

店長が、産休・育休・介護などのために休職する場合、サポート店長が店舗運営を支援することで、店長が適切なワークライフバランスを維持できる職場環境を実現しました。

● 出産・育児・介護支援

様々な支援制度により、出産や育児、介護といったライフイベントの変化があっても、キャリアを諦めることなく、最大限の力を発揮して活躍いただける環境づくりを行っています。例えば、一人ひとりのニーズに合わせ、育児や介護のための短時間勤務を選択できます。

離職率

6.2%

全社員月間平均残業時間

18.4時間

有給休暇取得率

57.1%

育児休業取得後の復帰率

100%

※上記いずれも直営社員（日本マクドナルド株式会社社員）の数値

男性の育児参加の推進

「男性の育児参加」は不可欠であると考えています。育休対象者には、制度概要や制度取得者・取得者の上司の声や男性育休取得者の対談を掲載した「育児休業サポートブック」の配布、問い合わせ窓口を設けるなど制度を取得しやすい環境づくりに努めています。また、取得者の同僚や上司に向けたサポート体制の拡充にも取り組んでいます。



男性の育児休業取得率

29%

※2023年直営常時雇用労働者の取得率



人材育成とキャリア

マクドナルドで働くすべての人々に「Feel-Good」な瞬間をたくさん感じていただける働きがいのある職場づくり、「Feel Good Place to Work」を目指しています。

その実現には「一人ひとりがポテンシャルを発揮すること」「誇りを持って働くこと」「成長を感じられること」が重要だと考えています。従業員の皆さんが、マクドナルドで働く経験や体験に高い価値を感じられることは、顧客満足度の向上につながり、ビジネスが成長する基盤となります。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/people/>

マクドナルドの人材

世代、国籍、バックグラウンドの異なる多様な人材が多種多様な職場で活躍しています。

店舗運営を支えるクルーや地域社員、新卒社員をはじめ、店舗をサポートする部署で働く社員など、役割は異なりますが、誰もがOur Purpose, Our Mission, Our Valuesに共感し、実践・実現することに対する高いコミットメントを持った人材が集まっています。

タレントマネジメント

継続的な人材育成のために、戦略的な人材配置や適材適所、ジョブローテーション等を行い、後継者育成に取り組んでいます。

ALL JAPAN CREW CONTEST(AJCC)



クルーに誇りを持って働いてほしいという願いを込めて、1977年から毎年AJCCを開催しています。AJCCは店舗やクルーにとってまさに甲子園。毎年5月から店内戦、12月に全国戦を開催しています。技術やサービスの向上はもちろん、モチベーションや店舗の団結力につながり、クルー一人ひとりのさらなる成長に寄与しています。

教育機関(ハンバーガー大学)

ハンバーガー大学は、働くすべての人々が、学び、成長し続ける企業であるための専門教育機関です。全世界でも9カ国と限られており、そのうちの一つが東京にあります。日本にハンバーガー大学が設立されたのは、国内第1号店である銀座三越店のオープンよりも1か月早い1971年6月であり、これは“人材教育が何よりも重要だ”という姿勢の表れです。

毎年、多くの社員やクルーがトレーニングツールを活用したりクラスを受講したりしています。ここで学んだリーダーシップやチームビルディング、マネジメントの知識やスキルは生涯、様々な職種、業務で活用できます。

1年間にハンバーガー大学の授業を受講する社員およびクルー

約**14,000**人 ※2023年12月現在

https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/people/hamburger_university/



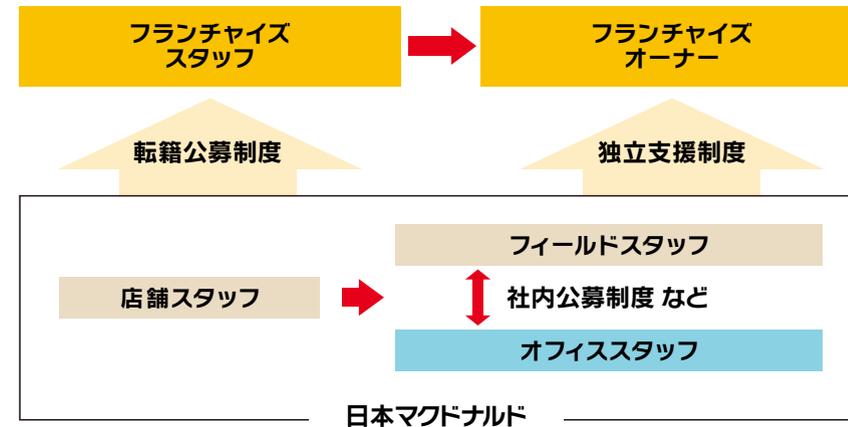
キャリア開発の推進

優れたリーダーシップを育み、一人ひとりの成長や次世代を担う人材の育成のために、職場でのチャレンジや成長のサポートを重要視しています。決められたキャリアパスではなく、「Up to You[®]」で、自ら選び行動できることで、働くすべての人にやりがいや充実感のある豊かな生活の提供を目指しています。

※マクドナルドのキャリア選択は多岐にわたり、努力次第でどこまでも成長できるという方針

多様なキャリア選択

自分らしいキャリアを築けるよう、様々なキャリア選択が可能です。社内公募制度やフランチャイズへの転籍公募制度、フランチャイズオーナーへの独立支援など様々な制度やプログラムを用意しています。従業員がこれらの機会についてより広く知り、理解を深めることができるよう、「キャリアブック」を配布しています。新たなチャレンジに挑む社員数は年々増加しています。



報酬制度

報酬制度は、マクドナルドのグローバルポリシーを遵守しています。個人の職務、役割と責任の大きさ、市場比較なども踏まえ、報酬水準を設定しているため、同職務内で性別や年齢などによる賃金差が生じることはありません。より高い成果に対しては、昇給を行い、一人ひとりの継続的な成長と貢献拡大を促進しています。昇給の機会を、すべての雇用形態で年1回以上設けています。さらに、社会情勢や競合企業の報酬を調査し、競争力のある報酬水準を維持しており、ビジネスの継続的な成長のために、積極的な採用を続けています。

成長できる職場

クルーとして店舗で仲間と一緒に働く経験を通して、コミュニケーション力、協調性、リーダーシップなどライフステージの各段階で活躍し続けるために求められるスキルを誰でも自然と身につけることができます。また、独自のトレーニングプログラムを受講することで、経験だけでなく知識としても学びが定着していきます。このようにして身につけた力は、クルーならではの強みであり、クルー経験者が生涯を通じて幅広いステージで活躍できる秘訣となっています。オフィススタッフも同様に、業務を通じてスキルを高めると共に、ハンバーガー大学のクラスや選択型研修を受講し、生涯活かせるポータブルスキルを身につけることができます。



社内公募制度

会社が必要としているポジションを社員に公開し、応募者の中からそのポジションに適した人材を登用しています。対象となるポジションの部署や職位は様々で、適宜設定される応募資格や条件を満たす社員は誰でも応募できます。目指すキャリアの実現に向けて自らチャレンジし経験を積む機会を提供することで、社員のキャリア形成支援や最適な人材配置の実現に努めています。また、2022年からは新卒入社後3年以内の直営店舗社員を対象に、オフィスでの勤務を通じて視野を広げて成長いただくことを目的とした「キャリアチャレンジ公募」を開始し、若手社員のキャリア形成における新たなキャリアパスとして活用されています。

●キャリアチャレンジ公募制度

若手社員の主体的なキャリアデザインをサポートする施策の一つとして、入社3年目までの直営店舗社員を対象に2022年から導入した公募制度です。2年間、店舗運営を支えるオフィススタッフとして勤務することを通じて、その後の自身のキャリアに対する視野を広げ成長することを目的としています。



安全で尊重しあえるインクルーシブな職場環境

従業員とお客様が守られていると感じ、いかなる種類のハラスメント、差別も許されない、安全でインクルーシブな文化のために、全世界共通の基準である「Global Brand Standards」を導入しています。

世界に約40,000店あるマクドナルド店舗(直営店、フランチャイズ店を含む)では、この基準を守り、店舗運営を行っています。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/people/>

Global Brand Standards

グローバル・ブランド・スタンダードでは、「ハラスメント、差別、報復の防止」「職場での暴力行為の防止」「店舗スタッフからのフィードバック」「健康と安全」の4つを重点分野として定め、従業員に対して安全で敬意を持ってコミュニケーションされるインクルーシブな職場環境を提供することを約束しています。この指針が、いつでも、どの場所でも、すべての従業員に提供されていることが重要です。取り組み内容を記載した「Brand Standards PLAY BOOK」を制作し、従業員の皆さんに提供しています。

ハラスメント・差別・報復を防止するためのオリエンテーションやトレーニングを実施しています。コンプライアンス・ホットラインなど、ハラスメントや差別を受けたことを報告できるプロセスやプログラムを整備しています。全従業員が常に安全で安心できる職場環境を提供できるよう、全従業員を対象に、サーベイ、および対象者へのストレスチェックを年1回実施し、従業員の課題や意見に対して耳を傾けています。また、職場の安全確認のプロセスを定期的に行い、店舗やその部門だけでは解決できない課題については関係部門に共有され、安全衛生委員会等で具体的な対応策を検討し実行しています。



人権の尊重

私たちは、人権を尊重すると共に、他者の人権への負の影響がないよう十分な注意を払い、万が一人権侵害がある場合には、それに対処するために、誠実に行動します。また、人権尊重、さらにはサステナビリティへの広範なコミットメントを通じて、よき企業市民としての模範となることに全力を尽くします。

詳しくは当社HPをご覧ください。

<https://www.mcd-holdings.co.jp/ir/humanrights/>

地域の仲間にサポートを

Community Connection

“私たちをいつも支えてくださっている地域の皆さまへお返しをする義務がある”。私たちのすべての活動は、マクドナルド創業者であるレイ・A・クロックのこの言葉を原点とし、コミュニティの一員として子供たちの幸せな未来、そしてお客様や地域・社会の皆さまの笑顔を第一に考え取り組んでいます。

私たちは、共に助け合う社会を目指したチャリティ文化の醸成、子供たちの「食」「体」「心」を育む活動、安全で安心な活気ある街づくりなど、地域に暮らすすべての皆さまのより良い毎日を支える活動に取り組んでいます。



Community Connection

- 31 ドナルド・マクドナルド・ハウスの支援
- 32 キッズスポーツ支援
- 33 子供たちの成長、安全を支える活動
- 34 教育支援

ドナルド・マクドナルド・ハウスの支援

マクドナルドは共に助け合う社会を目指したチャリティ文化の醸成と「公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス(DMHC®)」の支援などを通じて「病気の子供とその家族」を笑顔にする活動に取り組んでいます。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/local/dmhcj/>

ドナルド・マクドナルド・ハウス(DMH)

DMHは、自宅から遠く離れた病院に入院する子供とご家族のための滞在施設です。「第二のわが家」をコンセプトに病院のすぐそばに建てられており、2023年12月現在、全国に12カ所あります。日本マクドナルドはDMHを設立当初から継続的に支援しています。全国すべての店舗に募金箱を設置し、募金付きクーポンの発行、モバイルオーダーからの募金など、多くの方たちが気軽にチャリティに参加いただけるよう取り組んでいます。

お客様から募金いただいたDMHC支援総額 (2023年)
(店頭募金、募金付きクーポンによる募金、モバイルオーダーからの募金を含む)

約 **15,407** 万円

お寄せいただいた募金は、すべてDMHCへ寄付させていただいており、ハウスの運営や建設などに使われています。



ドナルド・マクドナルド・ファミリールーム

2023年12月、榊原記念病院(東京都)に入院している子供たちに付き添うご家族のための「心と身体の休息場所」ドナルド・マクドナルド・ファミリールームがオープンしました。子供のすぐ側にいながらも医療スペースからひととき離れて、軽食や休憩をとることができる施設で、ハウスと同様に皆さまからの寄付や募金、ボランティアに支えられています。

マックハッピーデー “青いマックの日”

ハッピーセット®のご購入1つにつき50円を、DMHCへ寄付しています。

日本では「青いマックの日」として2023年は11月19日(日)に開催しました。ドリンクカップやペーパーバッグを青にし、店舗ごとに独自の装飾をしてハウス支援を呼びかけ、多くの方たちにチャリティへご参加いただきました。



東京マラソン2023

2023年3月に開催された東京マラソン2023で、DMHC支援のために「Team DMHC」ランナー約1,200名が参加しました。約400人のマクドナルドスタッフ、ビジネスパートナーが応援団を結成し、沿道から「Team DMHC」ランナーに声援を送りました。



DMHCは東京マラソン2023チャリティの寄付先団体です。



©TOKYO MARATHON FOUNDATION

プロ野球 DMHC 応援ゲーム

DMHCへの支援の呼びかけを行う、プロ野球「DMHC 応援ゲーム」を2023年に4回開催しました。

ハウスの近くに本拠地を構える球団と連携し、ハウス利用者による始球式や会場での募金活動を行いました。



スマイルソックス募金

学童野球球児・サッカー少年少女・保護者・チーム関係者が、病気と向き合う同じ年頃の子供たちへの思いを込めて、全国大会で「スマイルソックス募金」に協力していただきました。また、学童野球都道府県大会や全国各地で行われているイベント会場でも「スマイルソックス募金」を実施しています。



100万人のクラシックライブ

赤ちゃんからお年寄りまで、あらゆる人の日常に、音楽の感動を届けたい「100万人のクラシックライブ」と一緒に全国各地のイオンモールでDMHC支援の演奏をお届けしました。



キッズスポーツ支援

子供たちの心と体の健全な成長を願って、
スポーツを楽しむ子供たちを支援しています。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/local/>

バスケットボール



小学生年代の子供たちに男女を問わずなじみの深いミニバスケットボール。2023年より小学生年代対象の「第54回マクドナルド全国ミニバスケットボール大会」のサポートをはじめました。バスケットボールを楽しむ子供たちを応援していきます。

第54回マクドナルド
全国ミニバスケットボール大会

全国約
8,350チーム



野球

高円宮賜杯
全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント

“小学生の甲子園”とも称される歴史ある大会を、マクドナルドは1986年からサポートしています。2023年8月の全国大会は、明治神宮野球場で開会式が実施され、全チームによる入場行進が行われました。また始球式では元メジャーリーガー・上原浩治さんが登場し、選手たちに向けてエールを送りました。2023年も支援活動の一環として、小冊子『野球プレーヤーブック2023』を大会登録チームに所属する選手約41万人に配布しました。

高円宮賜杯 全日本学童軟式野球大会
マクドナルド・トーナメント

全国約 **10,000**チーム
支援児童約 **41**万人 ※2023年度



サッカー



JFA 全日本 U-12サッカー選手権大会

12歳以下の選手で構成される全国のチームが出場を目指し、数多くの国内外で活躍するプロサッカー選手を輩出している日本最大規模の小学生サッカー大会を、2011年からサポートしています。また2023年も支援活動の一環として、小冊子『サッカープレーヤーブック2023』を大会登録チームに所属する選手36万人に配布しました。

JFA 全日本 U-12サッカー選手権大会

全国約 **8,200**チーム 支援児童約 **36**万人
※2023年度

マクドナルドフレンドリーカップ

JFA 全日本U-12サッカー選手権大会で惜しくもベスト8に進むことが叶わなかった40チームが参加する「マクドナルドフレンドリーカップ」。全国大会本戦では出場機会のない選手にも出場機会を作り、より多くの仲間たちと交流を深めてほしいとの思いから、2019年より開催しています。フレンドリーカップでは特別にスマイルソックスを履いて出場することをJFA（日本サッカー協会）に認めていただいており、選手が病気と向き合っている子供たちを応援してプレーしています。



子供たちの成長、安全を支える活動

“あなたの街と共にあるマクドナルド”として、
安全で安心な活気ある街づくりを目指し、地域に貢献する活動を行っています。



<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/local/>

子育て支援

国と地方自治体が推進する「子育て支援パスポート事業」に協力しています。「子育て支援パスポート」をご提示いただいたお客様にチーズバーガーのハッピーセット®を特別価格で提供しています。



子育て支援におけるハッピーセット販売数（2023年）

491,904セット



安全安心を守る取り組み

子供たちの安全を守るため、地域の警察本部等と協力しています。子供が危険に遭遇した際や困ったことが起きた際などにマクドナルド店舗に駆け込んで助けを求められることができる「こども110番の家」の活動を推進しています。また、全国交通安全運動の期間など各警察本部と連携した「防犯教室」や「交通安全教室」を実施しています。また、各警察本部と連携した「防犯教室」「交通安全教室」の実施や「地域の安全・安心につながる動画」を制作して店舗のデジタル掲示板を通じて呼びかけを行っています。地域の見守り活動の一環として、兵庫県内の店舗ではマックテリバリーバイクによる「こども110番のバイク」としての活動を継続しています。全国の新小学1年生に2023年も「安全笛」を地域の教育委員会や警察本部等を通じて配布していただきました。



「こども110番の家」実施店舗数

2,365店舗

※2023年12月現在



安全笛贈呈数（2023年）

計 **789,850** 個



子ども食堂

地域コミュニティの一員として、ご要望いただいた子ども食堂や支援団体の皆さまと連携したサポートを一部エリアで行っています。

災害支援募金

大規模な災害がおきた際には、義援金店頭募金や寄付を実施し、被災された方々の救援や支援に努めています。

トルコ・シリア地震（2023年）
日本マクドナルド社からの寄付

1,000,000円

マクドナルドラジオ大学®

「移民や難民」の方々が教授となって、マクドナルド店内で講義を聴く「マクドナルドラジオ大学」を開催。2023年は東京の一部店舗および鳥取県全店舗で開催しました。演出家／アーティストの高山明氏を中心としたPortB(ポルト・ビー)や美術館／博物館と連携し、「食事の楽しみ」と一緒に、「学び」や「発見」をお届けする取り組みです。



教育支援

子供たちの笑顔をより豊かにするために、様々な学びの機会を提供しています。



https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/local/food_education_support/

食育支援

子供たちに楽しく食べる喜びや食に関する正しい知識と習慣を伝えたい。2005年に開発した小学生向けオリジナル教材「食育の時間」からはじまり、以降「食」を提供する企業の責務として継続して教育現場の食育授業を支援しています。現在ウェブサイトで公開している「食育の時間+（プラス）」は、正しい手洗いや衛生管理、SDGs教育にもなる食品ロスなどを含む、食にまつわる7つの基本が学べる教材となっており、全国の教育現場で活用いただいています。

2023年には、農林水産省が実施する第7回食育活動表彰において、オリジナルデジタル教材「食育の時間+（プラス）」を通じた食育授業支援が「審査委員特別賞」を受賞いたしました。家庭でも食育を学ぶ機会を増やしていただきたいと考え、夏休み期間には「自由研究特設サイト」を公開しています。本教材を活用して完成できる自由研究フォーマットや生活習慣絵日記、パッケージを使った工作動画などを提供しています。



オリジナル教材

「食育の時間+（プラス）」を通じた食育授業支援（2023年）

教材を使った授業・指導実施回数

597回

受講児童・生徒数

19,242人



※2023年12月現在の判明数

ハロードナルド！

未就学児と小学校低学年を対象として、子供たちの日常生活に必要なルールやマナーを伝えるプログラムを実施しており、従来の「交通」「防犯」に、2022年からは「SDGs」も加わりました。訪問またはオンラインで、ドナルド・マクドナルドと一緒に分かりやすく楽しく学ぶことができます。



SDGs 出前授業

地球や社会のために「自分に何ができるのか」を考える機会につなげてほしいという願いを込めて、小学校高学年を対象にSDGsの出前授業を一部地域で実施しています。近隣店舗のスタッフがマクドナルドの取り組みを紹介しながら「地球のためにできること」について児童たちが考え、発表するプログラムとなっています。



2023年 DATA

Our Planet

環境データ

エネルギー使用状況 & CO₂排出状況

 全店の種別エネルギー使用状況

電気
64,664万kWh/年
対前年比▲0.9%

ガス（都市ガス換算）
2,926万m³/年
対前年比▲15.7%

水道
484.7万t/年
対前年比+2.4%

 お客様千人あたりの種別エネルギー使用状況

電気
441.3kWh/千人
対前年比▲0.6%

ガス（都市ガス換算）
19.9m³/千人
対前年比▲15.4%

水道
3.3t/千人
対前年比+2.7%

 全体のエネルギー使用状況 & CO₂排出量

再生可能エネルギーの割合
8.1%

原油換算値
201,453
キロリットル/年
対前年比▲3.9%

原単位原油換算値
0.2337
キロリットル/千レジカウント
対前年比▲3.6%
※原単位分母：千レジカウント

CO₂排出量
331,622 **108.7**
t-CO₂/年 t-CO₂/店舗
対前年比▲7.9% 対前年比▲8.9%

廃棄物発生状況

全店の
食品・容器包装廃棄物量

全体
 **160.1**千t/年
対前年比▲1.2%

食品
 **49.9**千t/年
対前年比▲1.8%

食品リサイクル率*
68.6%
対前年比+3.6%
※食品リサイクル定期報告に基づく発生抑制を含む

紙類
 **41.4**千t/年
対前年比▲1.0%

プラスチック類
 **6.0**千t/年
対前年比▲10.4%

梱包材など
 **62.8**千t/年
対前年比+0.3%

食品廃棄物の割合
31.1%

売上100万円あたりの
食品・容器包装廃棄物量

全体
 **210.0**kg/百万円
対前年比▲8.8%

食品
 **65.4**kg/百万円
対前年比▲9.5%

食品リサイクル法に基づくファーストフード店の発生抑制目標値83.3kg/百万円を下回っています。

紙類
 **54.4**kg/百万円
対前年比▲8.6%

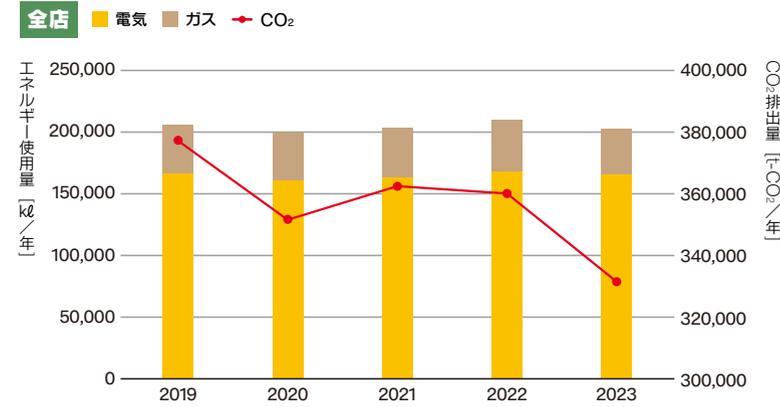
プラスチック類
 **7.8**kg/百万円
対前年比▲18.5%

梱包材など
 **82.4**kg/百万円
対前年比▲7.3%

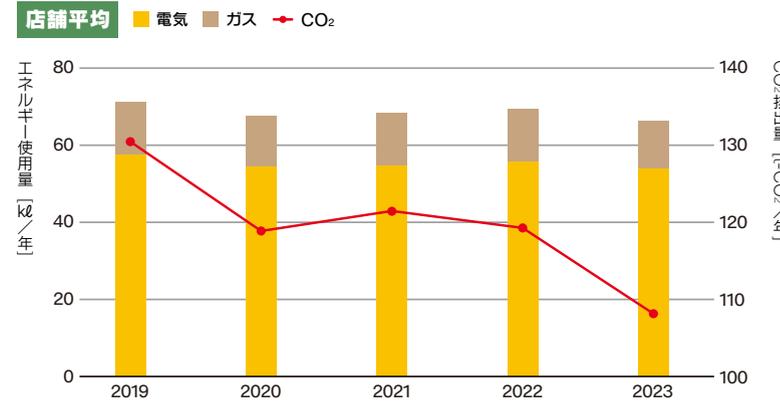
Our Planet

環境データ推移

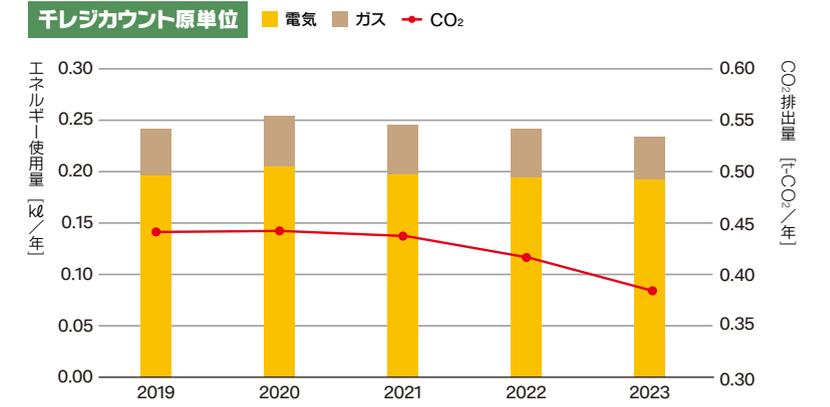
エネルギー使用量 & CO₂排出量



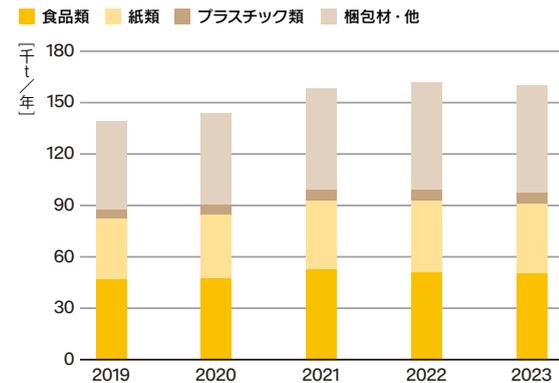
エネルギー使用量 & CO₂排出量



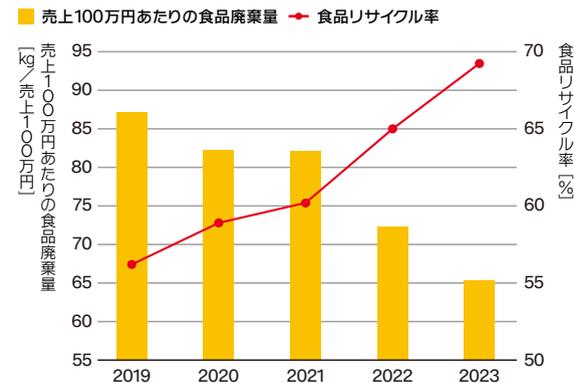
エネルギー使用量 & CO₂排出量



全店廃棄物排出量

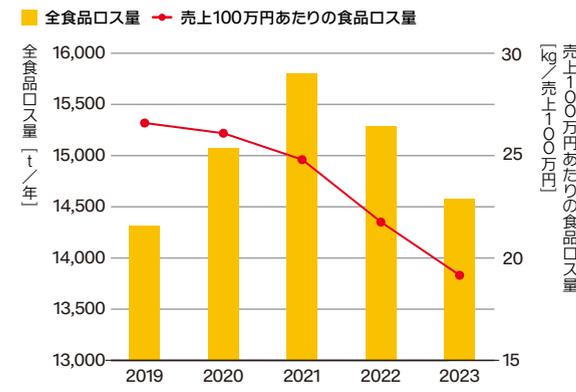


売上100万円あたりの食品廃棄量 & 食品リサイクル率



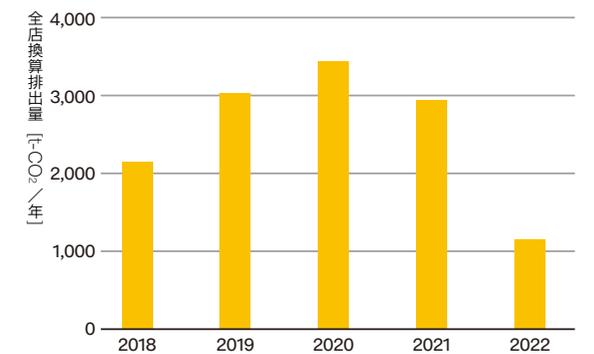
※食品リサイクル法に基づくファーストフード店の発生抑制目標値=83.3 kg/百万円

全食品ロス量 & 売上100万円あたりの食品ロス量



全店フロン排出量

※4月から翌年3月までで算出



Food Quality & Sourcing

食品安全



GAP (農業生産工程管理)

Global G.A.P. Plus Add-on 認証を受けたレタス生産者の割合

100%



SQMS (サプライヤー品質マネジメントシステム)

GFSI 規格要求事項に独自項目を追加した、さらに厳しい食品安全マネジメントシステムの要求事項を満たしたサプライヤーの割合

100%

責任ある調達



FSC® 認証 (森林保全)

お客様向け紙製容器包装類、トレイマットおよび木製カトラリー類の FSC 認証取得率

100%



MSC 認証 (水産資源保全)

MSC 認証取得漁業で獲られたフィレオフィッシュ®の白身魚の割合

100%



レインフォレスト・アライアンス認証 (持続可能な農業)

コーヒー豆のレインフォレスト・アライアンス認証取得率

100%



RSPO 認証 (持続可能なパーム油の調達)

フライオイルの RSPO 認証取得率

100%



食品安全監査機関から重大な違反を受けた店舗数・割合

0店舗 0%



食中毒の集団発生件数

0件



ビーフ

森林破壊を伴わないサプライチェーンによる調達率

98.5%

※マクドナルドグローバルの数値



大豆

チキンの生育用の飼料大豆における RTRS*認証のクレジットの購入率

100%

※責任ある大豆に関する円卓会議

Jobs, Inclusion & Empowerment

直営店舗数

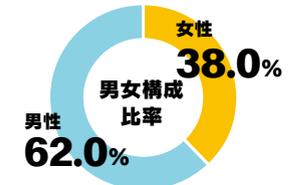
878店舗

フランチャイズ店舗数

2,104店舗

全社員数(正社員)

2,633人



障がい者雇用比率

2.3%

離職率

6.2%

有給休暇取得率

57.1%

育児休業取得後の復帰率

100%

全社員月間平均残業時間

18.4時間

男性の育児休業取得率

29%

※2023年直営常時雇用労働者の取得率

地域ごとの平均時給

最低賃金は各都道府県により定められており、2023年に全国平均で1,004円となっています。いずれの地域においても最低賃金を100%担保すると共に、マクドナルドのグローバル報酬ポリシーに則り、役割と責任の大きさに基づく競争力ある報酬水準を設定しています。

労働関連法規の遵守

マクドナルドはピープルビジネスであり、法令遵守の徹底を重視し、教育や体制づくりに取り組んでいます。

※直営従業員の数値

第三者意見

日本ではあまり知られていませんが、食品産業は環境負荷が非常に高い産業であり、それをよりサステナブルにするための方策が近年世界的に議論されています。外食チェーンはもちろんその重要な一部であり、3,000店舗と日本最大の店舗数を誇るマクドナルドは、影響だけでなく、責任も大きいと考えられます。そういう思いでこのレポートを読み進めたのですが、マクドナルドが業界のリーダーとして、サステナビリティの分野でも積極的に業界をリードしようと責任を持って取り組んでいる様子がよく伝わってきました。

例えば、原材料の調達はもちろん環境への影響が大きいプロセスですが、プラスチックの利用を減らし、代わりに使用する木や紙については100%認証されたものに切り替えています。代表的な商品の一つであるフィレオフィッシュ®の白身魚やコーヒー豆も、サステナブルと認証されたものを100%使用しています。マクドナルドのように大量の原材料を調達する企業が100%を達成することは大変な偉業であると敬意を表します。パーム油、大豆、ビーフについてはよりサステナビリティへの配慮を高めることができるはずと考えますが、そのための移行過程にあることは十分に伝わってきました。調達量と影響が大きいビーフやポテト、エビなどについて、今後の進展を期待しています。

また、マクドナルドで働く方は、店舗のスタッフを含めると20万人にもなるそうで、しかも性別、年齢、国籍など実に多様です。そうしたすべての方々にとって働きやすい職場環境を整備することは並大抵ではないでしょう。最近でこそ多くの企業がDE&I*を謳っていますが、マクドナルドはその最先端を実践して来たのです。そこで培われた経験は他の企業にも参考になるでしょうし、最近増加している外部の配達員などにも生かしてもらえればと思います。管理職の社員においては、女性の割合が全社員の男女比とはやや乖離しているようですが、2030年までには目標が達成され、より良いチームとなるに違いありません。

地域社会、特に子供を応援する視線もよく伝わってきました。現在、子供にとってますます重要になっているのが、栄養バランスの取れた食事を取ることです。海外では子供向けの食品や広告に対する規制も始まっています。ぜひ栄養や健康面でも子供たちを応援していただきたいと思います。

いくつか残されている問題は、解決が容易ではないことも多いでしょう。しかし、今や食の分野においても環境と社会のサステナビリティは前提条件です。日本ではマクドナルドが新しいレストランのあり方を切り拓いてくれるものと期待しています。

*ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン



株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役
一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ (JBIB)
理事・事務局長
一般社団法人日本エシカル推進協議会 副会長・理事

あだち なおき
博士(理学) **足立 直樹**